



平成 20 年 1 月 18 日

各 位

会 社 名 三光合成株式会社
 代表者名 取締役社長 梅崎 潤
 (J A S D A Q ・ コード 7 8 8 8)
 問合せ先 取締役常務執行役員 廣川修悦
 (TEL. 0763-52-7105)

特別損失の発生及び平成 20 年 5 月期中間（連結・単独）業績予想との差異及び
 通期（連結・単独）業績予想の修正に関するお知らせ

当社は、平成 20 年 5 月期中間決算において下記のとおり特別損失が発生いたしますので、その概要をお知らせするとともに、最近の業績の動向等をふまえ、平成 20 年 5 月期（平成 19 年 6 月 1 日～平成 20 年 5 月 31 日）の業績予想について、平成 19 年 9 月 28 日付当社「平成 20 年 5 月期第 1 四半期財務・業績の概況（連結）」及び平成 19 年 7 月 13 日付当社「平成 19 年 5 月期決算短信」にて発表いたしました業績予想を下記のとおり修正いたします。

記

1. 特別損失の発生及びその内容

(単独)

「金融商品に係る会計基準」に基づき、連結子会社「SANKO NEDERLAND B.V.」及び「天津三華塑膠有限公司」の評価を見直した結果、単独決算において関係会社株式評価損 327 百万円の処理を行う見込となりました。

(連結・単独)

当社熊谷工場新設に係る工場移転費用 100 百万円を、平成 20 年 5 月期中間決算において特別損失に計上する見込です。

2. 平成 20 年 5 月期連結業績予想の修正等

①中間期（平成 19 年 6 月 1 日～平成 19 年 11 月 30 日）

(単位：百万円)

	売 上 高	営業利益	経常利益	中間純利益
前回発表予想 (A)	25,000	300	280	100
今回修正予想 (B)	26,200	280	152	△73
増減額 (B-A)	1,200	△20	△128	△173
増減率 (%)	4.8	△6.7	△45.7	—
(ご参考) 前期実績 (平成 19 年 5 月期中間)	22,622	△129	△180	△413

②通期（平成 19 年 6 月 1 日～平成 20 年 5 月 31 日）

(単位：百万円)

	売 上 高	営業利益	経常利益	当期純利益
前回発表予想 (A)	51,000	900	700	400
今回修正予想 (B)	52,000	500	300	100
増減額 (B-A)	1,000	△400	△400	△300
増減率 (%)	2.0	△44.4	△57.1	△75.0
(ご参考) 前期実績 (平成 19 年 5 月期)	48,656	432	315	827

3. 平成20年5月期単独業績予想の修正等

①中間期（平成19年6月1日～平成19年11月30日）

（単位：百万円）

	売上高	営業利益	経常利益	中間純利益
前回発表予想（A）	13,000	50	170	100
今回修正予想（B）	12,700	△37	86	△305
増減額（B－A）	△300	△87	△84	△405
増減率（%）	△2.3	－	△49.4	－
（ご参考）前期実績 （平成19年5月期中間）	12,696	21	264	△931

②通期（平成19年6月1日～平成20年5月31日）

（単位：百万円）

	売上高	営業利益	経常利益	当期純利益
前回発表予想（A）	27,000	300	400	200
今回修正予想（B）	25,000	△150	50	△400
増減額（B－A）	△2,000	△450	△350	△600
増減率（%）	△7.4	－	△87.5	－
（ご参考）前期実績 （平成19年5月期）	26,629	401	607	304

4. 修正の主な理由

（1）中間期の連結決算の業績予想

売上高につきましては、アジアを中心とする車両部品や欧州での薄型TV部品の増加により、当初予想比較1,200百万円増の26,200百万円の見込であります。営業利益につきましては、国内において車両部品の新製品への切替による生産立ち上げ費用の増加と金型の価格競争激化による原価率上昇により、前回予想比較で悪化すること及びオランダ及び中国の子会社においては原価改善に努めており漸次進展をみておりますが、前回予想比較で遅れが生じていること等により、営業利益は280百万円、経常利益は為替差損の発生及び支払利息の増加により152百万円となる見込であります。当期純利益につきましては、上記の理由と法人税等調整額等の税金費用増加により73百万円の損失となる見込であります。

（2）中間期の単独決算の業績予想

売上高につきましては、車両部品の増加はあるものの、複写機用部品や金型の受注減少が影響し、当初予想比較300百万円減の12,700百万円の見込であります。営業利益及び経常利益につきましては、車両部品の新製品への切替による生産立ち上げ費用の増加と金型の価格競争激化による原価率上昇により営業損失は37百万円、経常利益は86百万円となる見込であります。当期純利益につきましては、関係会社株式評価損の計上により305百万円の損失となる見込であります。

（3）通期の連結決算の業績予想

中間期の業績予想をふまえ、売上高につきましては、子会社の増収もあり当初予想比較1,000百万円増の52,000百万円、利益面につきましては、当社の減益が影響し営業利益は500百万円、経常利益は300百万円、当期純利益は連結子会社の固定資産売却益と当社の工場移転費用が見込まれ100百万円の見込であります。

（4）通期の単独決算の業績予想

中間期の業績予想をふまえ、売上高につきましては得意先の製品開発の延期による受注減が見込まれ当初予想比較2,000百万円減の25,000百万円、利益面につきましては、売上高減少により、営業利益は150百万円の損失、経常利益は50百万円、当期純利益は工場移転費用が見込まれ400百万円の損失となる見込であります。

（注）上記の予想は本資料の発表日現在において入手可能な情報に基づき作成しておりますので、実際の業績は今後の要因により予想数値とは異なる場合があります。

以上